

2022年 8月 7日 《 誕生 祝 福 式 》

# 主 日 礼 拝

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 ②小山美枝子姉

賛 美 聖歌498番 ~御手をのぼして~

主の祈り

聖書朗読 使徒行伝8章14~25節

特別賛美

メッセージ 「聖霊の注ぎと信仰の世界」

石井 潤 牧師

献 金 聖歌651番 ~主の勝利満ちわたる~

祝 禱

お知らせ [司会者]

賛 美 ~見つめ続けます~

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします! ☆  
《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを感謝致します。今週も主の守りと助けをお祈り致します!

☆今週の祈り会：○早天祈禱会：明朝6時～。◎祈禱会：木曜午前10時半～、

◎夜7時半（リバイバルミッション） ○準備祈禱会：土曜夜8時～。

★来週の日曜礼拝では聖餐式が行われます。〈司会：石井兄/祈り：白川兄〉

◇来月3～25日まで、大川牧師夫妻が米国研修に行かれています。お祈りください!

## ☆一年に一回聖書を完読できる! Bible Reading Plan [8/7-/14]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	詩篇 31-34	35-37	38-41	42-45	46-50	51-55	56-59	60-65
新約	ローマ 5	6	7	8:1-17	:18-39	9	10	11:1-15
チェック	○○○○○	○○○○	○○○○ ○	○○○ ○○○	○○○○ ○○	○○○○ ○○	○○○○ ○	○○○○○ ○○

## 「聖霊の注ぎと信仰の世界」

～アブラハムの信仰に生きる～

「なぜなら、聖書はなんとやっているか、『アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた』とある。…彼はこの神、すなわち、死人を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのである。彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた。」

ローマ人への手紙4章3, 17, 18節

初代教会の働きは、聖霊の働きによって進められた。教会は人の集まりだったが、人が主導したわけではなかった。もし、人が主導で働きをしたら、それぞれの時代、それぞれの国、それぞれの人間の考え方は異なるので、別々の働きになってしまって、決して一つの働きとして進められることはなかっただろう。しかし、人が神の働きにその決定権を委ね、その神の決定権に従って進むようにしたら、それは一つの働きとして前進し続けることができるだろう。それがつまり、初代教会の働きそのものだったのです。

それはまさに、ローマ人への手紙の4章で登場する、「信仰の父」であるアブラハムの生き方であり、彼のように、すべて主に従う者たちが歩む道と同様であるとパウロは語りたかったのだと思う。アブラハムは自分の生まれ故郷を出て、そこで、全能の神に出会い、その人生が変えられた。そして、その時から、神を信じる人間となり、その新しい生き方が、一つの民族として形づくられるようになった。それがユダヤ人たちだった。そして、そのユダヤ人たちに与えられた神に従うという道が、イエス・キリストによって、全人類の人々、そして、その中で神に信仰を委ねて生きていく道を歩み始めた者たちの生き方へと継承されるようになった。アブラハムは決して特別な存在ではなかった。信仰の父、信仰の道を歩み始めた最初の人というだけで、私たち主を信じる者たちと何ら変わりはありませんでした。

そのアブラハムとの肉体的な、遺伝的なつながりが重要なのではなく、彼と同じように、主を信じるということこそが重要であるということを知り得たパウロ先生は、ひたすらにその世界を全世界至る所の人々に話して聞かせるようになった。旅好きだったパウロはその旅をしたそれぞれの場所で、人々にキリストを、神を伝えるようになった。どんなときでも、神を信じるのが重要であるとメッセージを伝え続けたのです。

今、私たちがこの時代を生きています。私たちもパウロのように、今、この時代に生きていく人々に、神を信じ、神に信頼して生きることを伝える必要があります。なぜなら、それだけが、人類が幸福に生きる道であり、永遠の救いを得る道であるからです。人がそれぞれの思いで生きる道はバラバラで、自分勝手に、滅びに向かうだけの道でしかない。なぜなら、人はその時の思い付きだけで、何の後ろ盾も、確証もないまま、不安定な薄氷の上を歩いているからです。主に祈り、福音を伝えるお働きを継続していきましょう！